

生涯学習としての住環境教育に関する基礎的研究

—小・中学校の校歌に謳われた住環境要素の分析—

田中 勝（山梨大）

（目的）将来のまちづくりの主人公である子供たちに夢を与えるような適切な住環境教育が求められている。さらに、まちづくりの出発点は住民参加であり、これからの住環境教育は、生涯学習の一環として、家庭や地域社会、職場などのあらゆる場を通じて地域毎に多様な形で実践されていくことが望ましい。学校教育は、その導入部として重要である。

本稿は、児童・生徒や一般市民に馴染みの深い「校歌」を取り上げ、そのなかで謳われている地域の住環境要素を読み取ることにより、歴史的に生活のなかで共有されてきた住環境のイメージについて明らかにすることを目的としている。

（方法）愛知県豊田市内の小・中学校72校（小校52校、中校20校）の校歌を収集し、歌詞の中から住環境要素を①自然環境系（山、川、丘など）、②歴史的環境系（神社など）、③その他の環境系（鮎など）に分けて抽出した。次に各要素の出現頻度と地域分布について検討した。

（結果及び考察）豊田市はトヨタ自動車㈱の誘致によって急成長を遂げた工業都市である（人口34万人）。にもかかわらず市内小・中学校の校歌では、教育理念や校風、郷土の歴史・風土とともに豊田市内の自然環境要素（たとえば、知川や巖山など）が豊富に盛り込まれており、多くの市民に共有される環境イメージを形成している。その一方で、豊田市内の歴史的街並みや都市景観（建築）、児童・生徒の生活に密着した学校周辺の住環境などが謳われることは少ない。校歌は時代背景や作詞者の意図を含めて固定化されやすく、変わりうる都市景観や住環境との対比の中で、生活空間の変化を子どもたちに認識させるのに有効と思われる。